

「地域で暮らすという事」 その1

なんもさの心意気

たすけあいワーカーズ「むく」代表
石川 絹子

介護保険がいよいよ始まった。高齢社会をみんなで支えようというシステムなのだから色々問題はあっても、とりあえず、私は期待している。二〇年後の二〇二〇年には四人に一人が六五歳以上になるという。世界的にも類を見ないスピードで、この国は高齢化が進むようだ。四人に一人といっても、その内の一人が子供だから二人の成人が一人の高齢者を支える事になる。その成人の一人が専業主婦やアルバイトかパートで働く人だったら…。これは逆に考えると、一人の成人が三人を支える事になる。これでは税金も増える事は期待できないわけで、各々が相應の負担をしなければならぬのはうなずける。

介護保険に関しては新聞・雑誌・テレビなどで取り上げられてきたし、行政サービスの説明会やリーフレットもあった。でも、第一号被保険者である六五歳以上の人達が、ちゃんと利用できるまでの理解が得られているかは疑問だ。第二号被保険者である私たちの世代はこれからゆくの、まだ猶予がある。使い勝手のよい「介護保険」にしていきたいものだ。

二〇年かけて高齢化の頂点に立つ者として、微力ながらも市民参加型といわれる福祉事業に携わってきた。六年前、私は生活クラブ生活協同組合の委員会活動のひとつ、福祉プロジェクトの一員として、福祉に関する諸制度や政策等について学習等をしながら、



石川 絹子 (いしかわ きぬこ) さん

南富良野町生まれ。

釧路赤十字看護専門学校卒業後、看護職につく。

1994年たすけあいワーカーズ「むく」を設立し代表となる。

1999年10月たすけあいワーカーズ9団体による「NPO法人北海道たすけあいワーカーズ」の代表理事に就任、現在に至る。介護保険制度における「指定居宅サービス事業者」の指定を受ける。4月より施行される介護保険制度に向けて、利用者・家族等のニーズに即応したよりよいサービスの提供体制整備の確立に邁進中。

生協として地域福祉に取り組めないか討議を重ねていた。

その頃、東京や神奈川の生活クラブ生協を母体として生まれた「たすけあいワーカーズ」が活動していた。正しくはワーカーズ・コレクティブというのだが、これは地域に暮らす人々が生活者の視点から、地域に必要な「もの」や「サービス」を、自らが「時間」「知恵」「技術」「労働」そして、いくばくかの「資本」を出し合って起こした市民事業だ。その働き方は一般的な雇う雇われるという関係ではなく主体的な働き方で、労働に対する報酬は受けるが利益を生み出す事が目的ではない非営利事業だ。

私のやりたかった事はこれだと思った。高齢になっても障害を持ってても、住み慣れた

街・自分の家で暮らしていきたい。介護や家事でちょっとした援助があると、随分暮らしやすくなる。そんなサービスを事業化したのが「たすけあいワーカーズ」。お互いさまの気持ちで、利用者が提供者にもなったり、たすけあいの輪が広がるといいなと思った。

現在、札幌市・石狩市・北広島市で「たすけあいワーカーズ」は九団体あり、昨年には「特定非営利活動」の法人格を取り、十二月には介護保険制度における「指定居宅サービス事業者」の指定も受けた。福祉サービスには、行政に代表される公的なサービス、多少お金はかかるが企業のサービス、そのどちらでもない住民参加型とか非営利団体のサービス等がある。介護保



札幌市清田区の有志で実施しているミニデイ「いきいき広場」

険ではサービス事業者として申請を出し、認められれば指定が受けられる。ひとつの土俵にみんなで上がる事になる。地域に暮らしているからこそ地域のニーズをよく知ることができる。互助型と呼ばれる団体のサービスが全体の一角を担えたら、福祉も変わると思う。

昨年だったか、どこかの市長が妻の介護に専念したいと退任を表明した時、美談としてマスコミで取り上げていた。でも、女性が親や夫の介護のために退職した話はたくさんあるが、これは美談としては取り上げてはもらえない。介護・家事・育児は女性の仕事として長い歴史の中で片づけられてきた。また、六五歳以上の男性に「介護が必要に

なったら誰に看てもらいたいか」というアンケートを実施したところ、そのベスト三が一妻・二娘・三嫁と出たそうだ。

これからの介護は家族介護から社会的介護へとかわるわけ、女性の介護からの開放になればと思う。しかし、白衣の天使ならぬジャージの天使と呼ばれるヘルパーはほとんどが女性だ。介護の専門職であっても、そのほとんどが臨時やパート雇用だ。これではよくいわれる「社会の嫁」ということになってしまう。

それでも、最近は介護や保育の分野に、男性の参加が増えてきたという。男女参画が進んできているようで嬉しくなる。

ところで、ここで問題。「あなたは将来、痴呆になると寝



「いきいき広場」の春の行事「お花見」

たきりになると、どっちが
いいですか？」と聞かれたらど
ちらを選ぶ？どっちもいやな
のは分かるけど、どちらかとい
えば痴呆でしょうか？正解は
たまごが先かニワトリが先か
と同じで、どちらかが先でも

いずれはふたつの状態はいっ
しょに出てくるといふ。痴呆
は社会性が不足すると、どんど
ん進行するぞうだ。いつでも
人と合ったり、出かけていっ
たり、趣味を持ったりするの
は痴呆の予防に良いことは知
られている。足腰が弱り、歩け
なくなったり、病気が原因で
床にいたりすると、たちま
ち寝たきりになったり、結果
として痴呆が始まったりする。
痴呆症というのは、毎日
いっしょに暮らしている家族
には、その症状がよくわかる
が、たまに訪ねていくのでは、
気がつかないなんてことはよ
くある。昔の人は小さい頃か
ら、礼節を重んじる事を教え
られてきているので、「お久し
ぶりです。お元気でしたか？」
と話しかけると、「あんな

誰？」なんて失礼な事は言わ
ない。思い出せなくても一応
「おかげさんで、変わりない
よ。あなたこそ忙しいのにわ
ざわざ来てくれて、すまない
ね。」と心えぐれる。「ど
か辛いところははないです
か？」皆によくしてもらって
るから、どこもなんでもない
よ。」と、介護をしている家族
を労う。「ボケが進んできてい
るっていうから来てみたけど、
あんがいしつかりしてるから
安心した。」と帰ってしまふ。
日々、二四時間、徘徊を繰り返
したり、目が離せないよう
な状態では、家族だけで介護
するのは無理というものだ。
昔は地域の関わりが密接で、
「遠くの親戚より近くの他
人」などと言われ、近所同士
で助け合ったりしていた。

様々な年代の人が住む地域な
らではの支えあいがあった。
子育てで悩んだり、嫁いびり
にあったりしたことを相談に
のってもらったり、ぐちをこ
ぼしてリフレッシュしたり、
困ったり悩んだりしているの
は自分だけじゃないんだとい
う安心感。これからは、人は
人に頼ったり頼られたり、世
話をかけたりかけられたり、
それを面倒だと思わなくて
いんだよ、と知ってもらう活
動も必要かと思う。
「遠くの親戚より近くのへ
ルパー」を合言葉に地域を元
気にしたいな。「いや、面
倒かけるね。助かるよ、すま
ないね。」と言われたら「な
んもさ。そんなのあたりまえ
でしょ。気い使わなくていい
からね。」の心意気ど…。